

2019年度第1四半期決算

取締役 兼 執行役員 財務・グローバルマネジメント本部長
福永 彰宏

2019年8月1日
古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

2019年度Q1決算のポイント

(単位：億円)

	Q1		前年比
	FY18 実績	FY19 実績	
売上高	2,408	2,263	▲ 146
営業利益	85	49	▲ 36
経常利益	75	39	▲ 36
親会社株主に帰属する 当期純利益	33	23	▲ 10

営業利益

49億円 前年比▲36億円(▲42%)

営業利益率:

2.2% 前年比1.4ポイント低下

- インフラセグメント、機能製品セグメントで減益
 - ・ 情報通信ソリューションは、欧州・アジアでのファイバ価格の下落および、北米での増産対応遅れ
 - ・ 機能製品セグメントは市況悪化の影響

親会社株主に帰属する当期純利益

23億円 前年比▲10億円(▲31%)

- 営業利益の減少
- 投資有価証券売却益の計上 および 特別損失の減少

現時点での進捗と取り組み

- ◆ Q1の営業利益は、自動車部品・電池、エネルギーインフラ事業は上振れも、情報通信ソリューション事業の下振れにより、全体では計画未達
- ◆ 通期予想の達成に向け、コスト競争力強化と低採算事業改善策を全社を挙げて実施

2019年度Q1実績 – 要約P/L

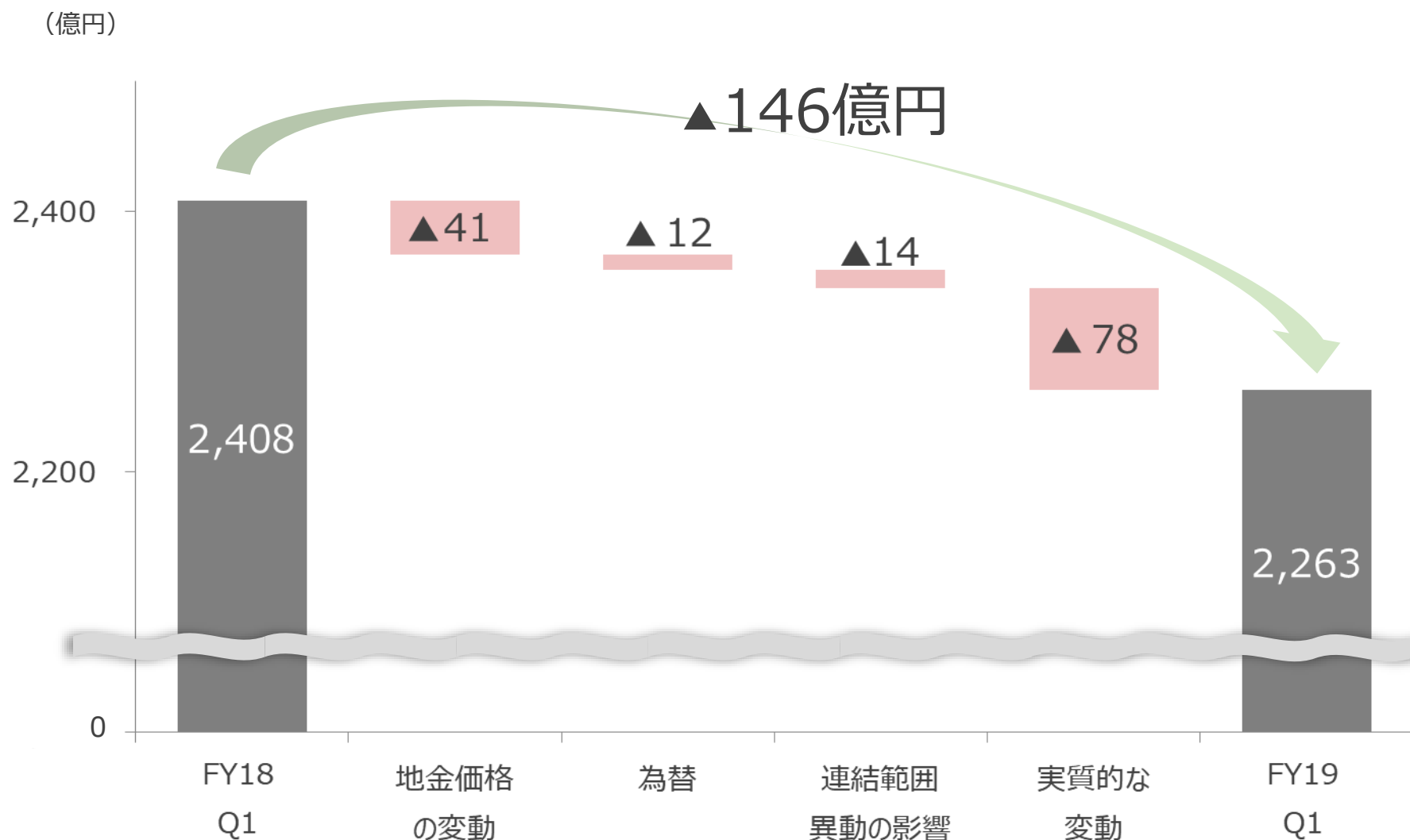
(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY18 Q1	FY19 Q1	前年比	主な増減内訳 (Q1)	FY19 通期予想
	a	b	b-a		
売上高	2,408	2,263	▲ 146	▲146億円(▲6%) 5ページ参照	9,600
営業利益	85	49	▲ 36	▲36億円(▲42%)	400
(率)	3.5%	2.2%	▲ 1.4	6ページ参照	4.2%
持分法投資損益	▲2	▲ 3	▲ 1		—
為替損益	▲ 4	▲ 4	+0		—
経常利益	75	39	▲ 36	▲36億円(▲48%)	375
(率)	3.1%	1.7%	▲ 1.4		3.9%
特別損益	▲ 19	4	+23	・特別利益：+12 (1→13)	▲ 60
法人税等	15	22	+7	・特別損失：+11 (▲20→▲9)	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	7	▲ 2	▲ 9		—
親会社株主に帰属する 当期純利益	33	23	▲ 10	▲10億円(▲31%)	210
(率)	1.4%	1.0%	▲ 0.4		2.2%
銅建値 平均	795	717	—		760
為替 平均	109	110	—		110

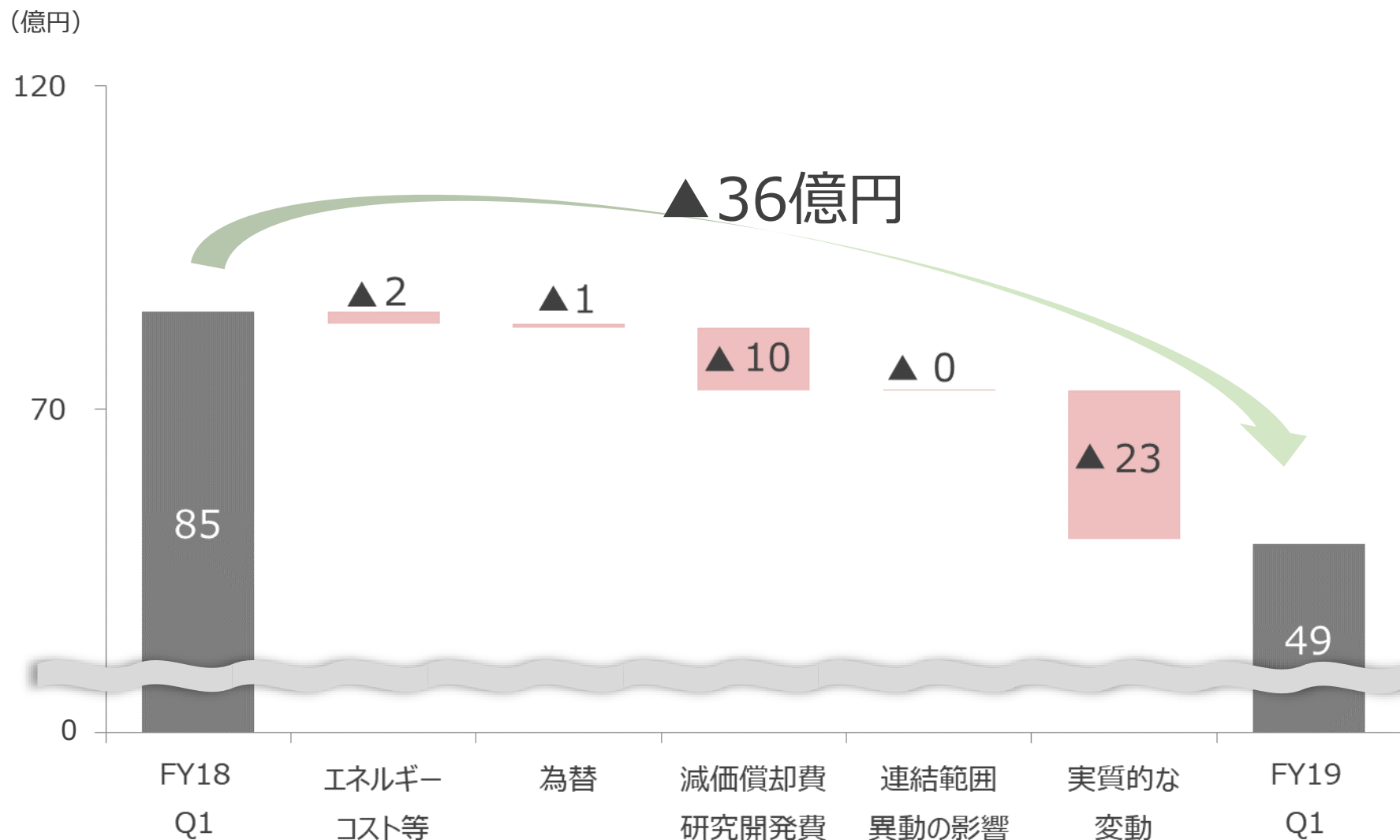
2019年6月18日に台湾の当社グループ会社（台日古河銅箔（股）有限公司）で発生した火災事故につきましては、近隣住民の皆様、関係当局の皆様、お客様をはじめとする多くの方々に多大なご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

逸失利益、復旧費用等を含めた本年度の業績（税金等調整前当期純利益）への影響については、現時点では30億円程度を想定しておりますが、現在精査中のため、通期予想には織り込んでおりません。

売上高の増減要因（前年比）



営業利益の増減要因（前年比）



セグメント別売上高および営業利益

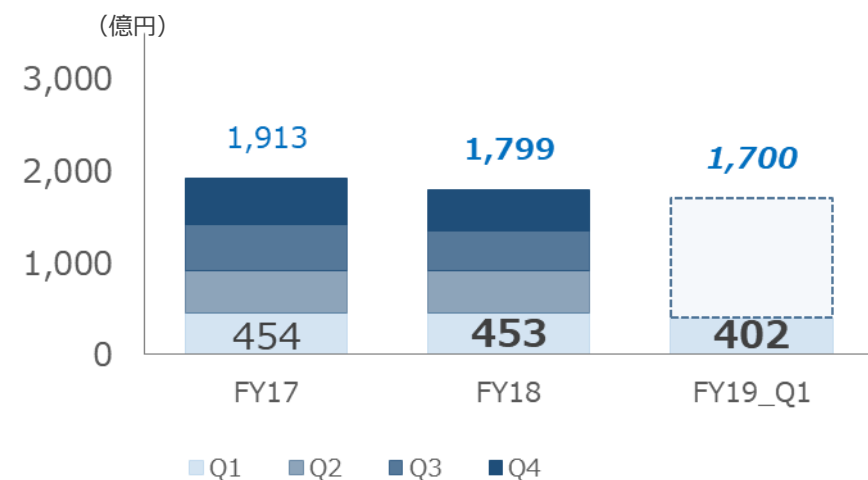
(単位：億円)

	Q1			通期			
	FY18 実績	FY19 実績	前年差	FY18 実績	FY19 予想	前年比	
売上高	インフラ	683	677	▲ 6	2,880	2,850	▲ 30
	情報通信ソリューション	453	402	▲ 51	1,799	1,700	▲ 99
	エネルギーインフラ	230	275	+45	1,081	1,150	+69
	電装エレクトロニクス	1,381	1,280	▲ 101	5,617	5,550	▲ 67
	自動車部品・電池	628	607	▲ 22	2,673	2,650	▲ 23
	電装エレクトロニクス材料	753	674	▲ 79	2,944	2,900	▲ 44
	機能製品	385	294	▲ 91	1,493	1,250	▲ 243
	サービス・開発等	118	123	+5	486	500	+14
	連結消去	▲ 158	▲ 112	+46	▲ 559	▲ 550	+9
	連結合計	2,408	2,263	▲ 146	9,916	9,600	▲ 316

営業利益	インフラ	18	▲ 4	▲ 22	74	100	+26
	情報通信ソリューション	29	1	▲ 28	98	100	+2
	エネルギーインフラ	▲ 11	▲ 4	+7	▲ 24	0	+24
	電装エレクトロニクス	35	35	▲ 0	195	185	▲ 10
	自動車部品・電池	22	27	+5	135	130	▲ 5
	電装エレクトロニクス材料	13	8	▲ 5	60	55	▲ 5
	機能製品	34	19	▲ 15	135	120	▲ 15
	サービス・開発等	▲ 2	▲ 1	+2	3	▲ 5	▲ 8
	連結消去	▲ 0	▲ 1	▲ 0	1	0	▲ 1
	連結合計	85	49	▲ 36	408	400	▲ 8

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

売上高 (事業部門：ファイバ・ケーブル、ファイテル製品、ブロードバンドソリューション)



営業利益：前年比 ▲28億円

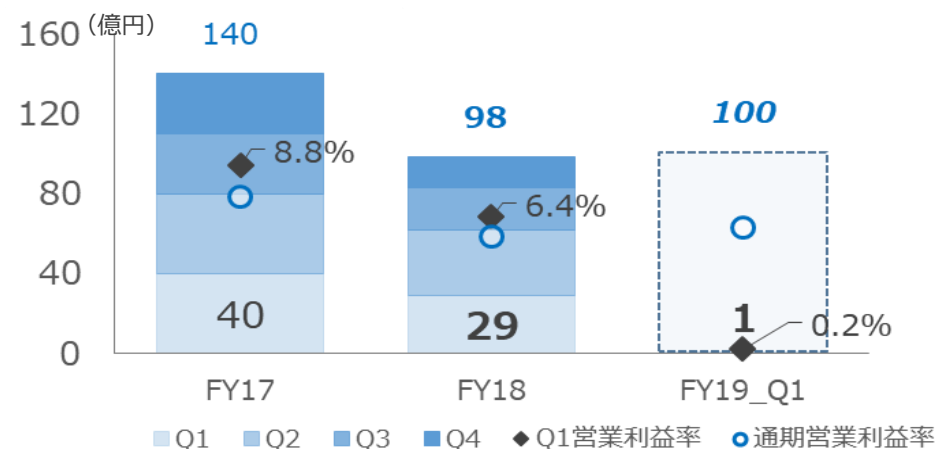
□：増益要因 ■：減益要因
✓：注カポイント

- 光ファイバは欧州とアジアでの価格競争激化
- 北米では光ファイバ増産効果発現の遅れ、光ケーブルは受注に増産が追い付かず
- 国内ネットワークシステム関連製品は好調だった前年に比べ減収
- 研究開発費、償却費の増加

- 中南米はソリューション事業を中心に好調
- 国内光ケーブルは堅調
- デジタルコヒーレント関連製品は低調であった前年上期に比べ増収

- ✓ 製品ミックスの最適化を意識した受注活動と、生産性改善
- ✓ 高機能ファイバおよびそれを使ったケーブルの拡販
- ✓ ソリューション事業の推進
- ✓ 次世代製品の開発促進

営業利益・営業利益率

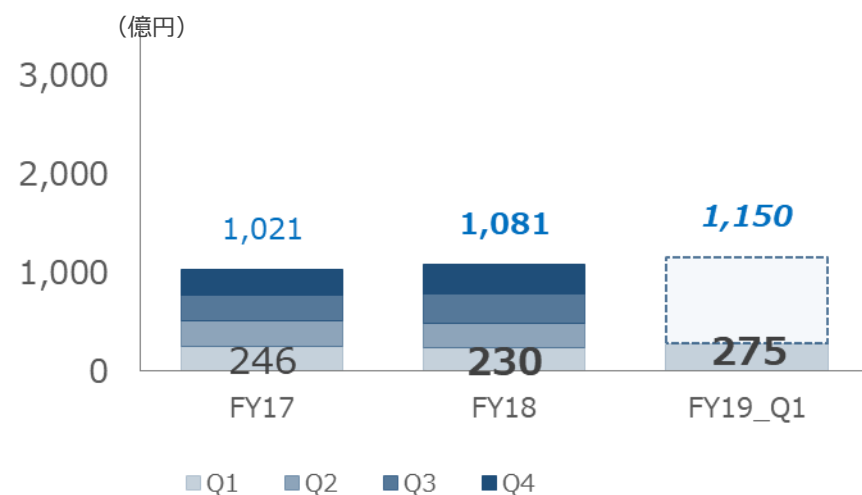


青：通期 売上・営業利益
黒：Q1 売上・営業利益

1-(2) インフラ (エネルギーインフラ)

売上高

(事業部門：電力、産業電線・機器)

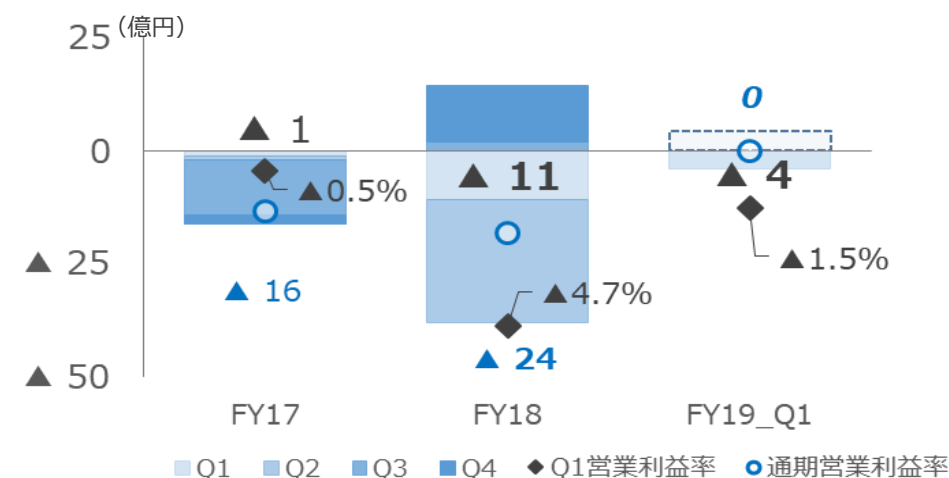


営業利益：前年比 +7億円

□：増益要因 ■：減益要因
✓：注力ポイント

- 国内の地中線案件需要の着実な取り込み
- 中国子会社は計画通りの進捗
- 海外低採算案件は18年度で終了

営業利益・営業利益率



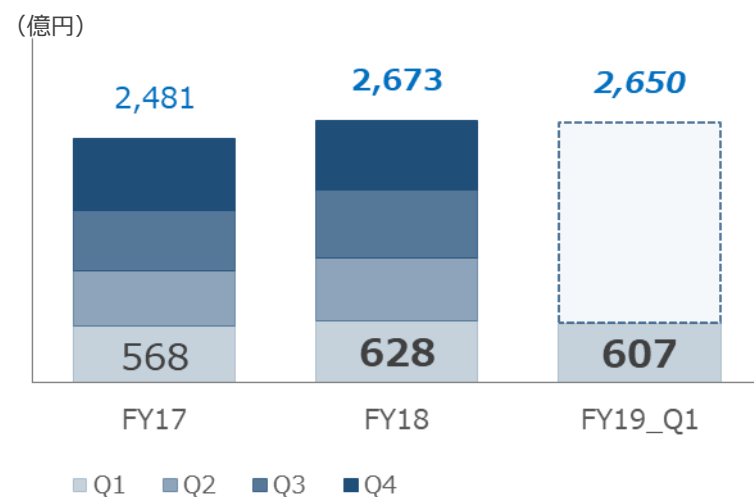
- ✓ 国内超高圧・再生可能エネルギー案件の着実な需要取り込み
- ✓ 工事施工能力および海底線対応設備増強
- ✓ 生産性改善によるコスト削減
- ✓ 軽さ・柔らかさ等の特徴を持ったアルミCVケーブルおよび部品の拡販

青：通期 売上・営業利益
黒：Q1 売上・営業利益

2-(1) 電装エレクトロニクス (自動車部品・電池)

売上高

(事業部門：自動車部品、電池)

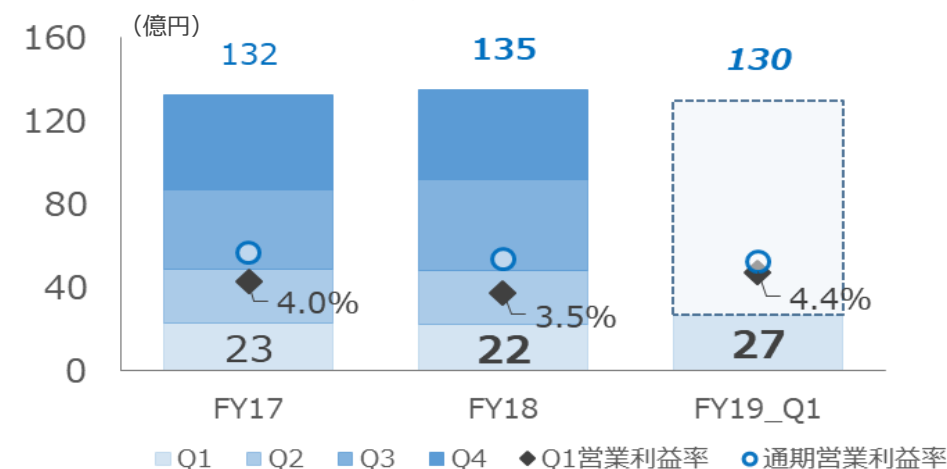


営業利益：前年比 +5億円

□：増益要因 ■：減益要因
✓：注力ポイント

- ワイヤハーネスの売上は引き続き堅調
- 20年度以降の案件に向けた、研究開発費、償却費等の固定費増加

営業利益・営業利益率



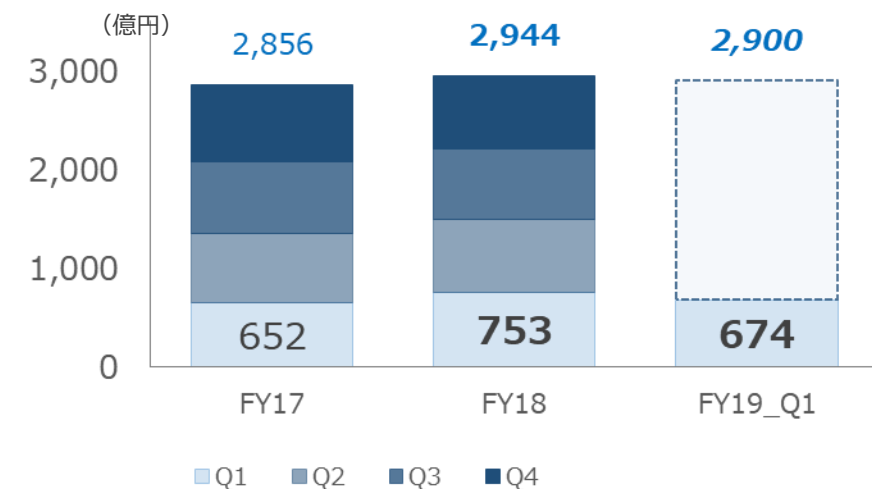
青：通期 売上・営業利益
黒：Q1 売上・営業利益

- ✓ 北米向けワイヤハーネス拡大に向けたアジアでの増産投資の着実な実行
- ✓ 先進運転支援システム関連として、次期高精度レーダの新規受注獲得活動と、従来モデルの拡販および20年型高機能BSSの完成
- ✓ 電動化・自動運転化の進展による軽量化需要の積極的取り込み

2-(2) 電装エレクトロニクス (電装エレクトロニクス材料)

売上高

(事業部門：導電材、巻線、銅条・高機能材、銅管)

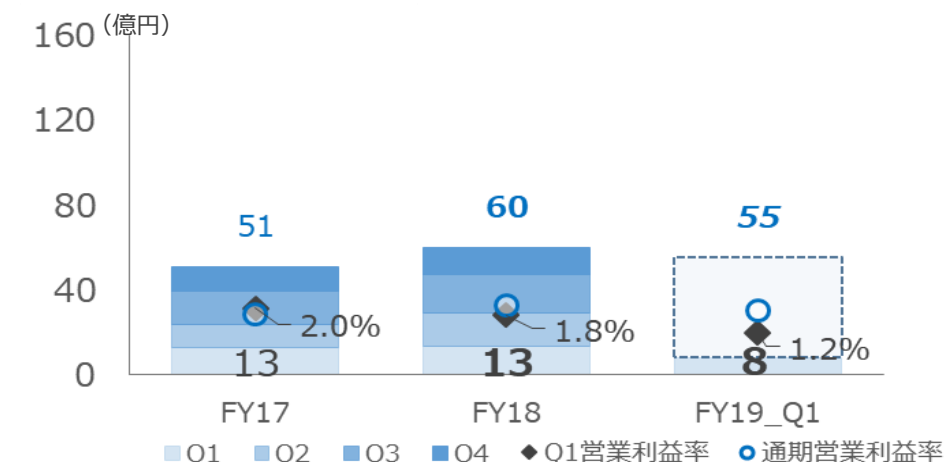


営業利益：前年比 ▲5億円

□：増益要因 ■：減益要因
✓：注カポイント

- スマートフォンをはじめとするエレクトロニクス関連の需要低迷は継続
- 巻線の電動車用途の売上は堅調

営業利益・営業利益率



- ✓ 市場ニーズに合わせた製品ミックス改善と生産性の向上
- ✓ 電子機器の高機能化に対応したオリジナル合金の拡販
- ✓ 自動車用巻線のグローバルでの採用拡大

青：通期 売上・営業利益

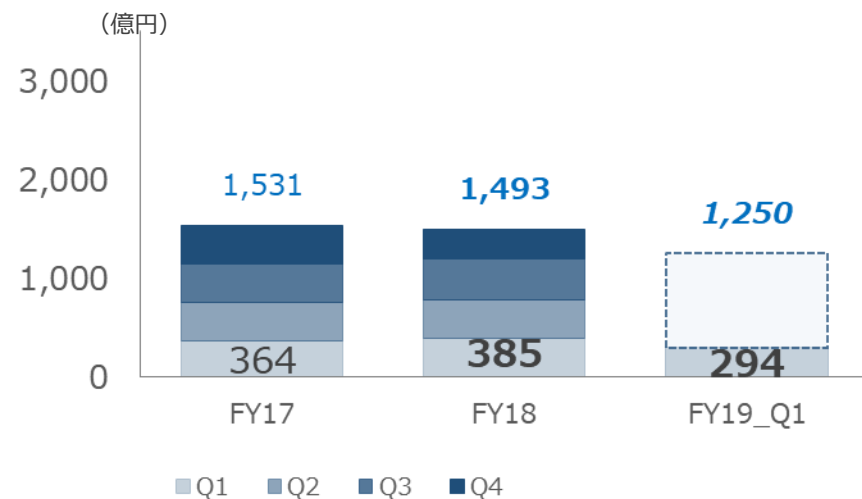
黒：Q1 売上・営業利益

3 機能製品

売上高

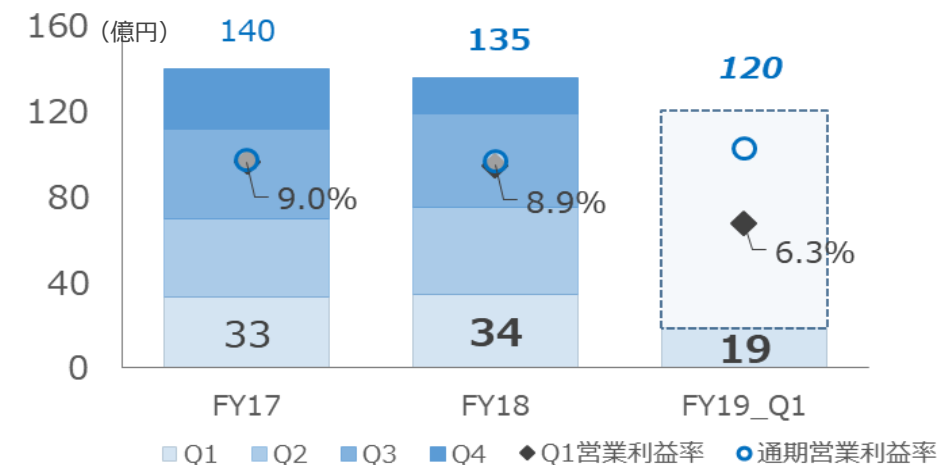
(事業部門：AT・機能樹脂、サーマル・電子部品、メモリーディスク、銅箔)

営業利益：前年比 ▲15億円

 □：増益要因 ■：減益要因
 ✓：注力ポイント


- 好調であった前年と比較して、データセンタ、メモリ、スマートフォン等の需要低迷
- 小中学校へのエアコン設置に伴い、配管用断熱材活況
- 地中埋設用ケーブル保護管は、現場施工の容易な角型タイプを中心に再生エネルギー市場で好調

営業利益・営業利益率



- ✓ 新たな収益基盤となる次世代品の開発
- ✓ 新規市場開拓・新用途の提案
- ✓ さらなる生産性向上・市場対応力の強化
- ✓ 使い捨てプラスチックをリサイクルしたケーブル関連製品の拡販

青：通期 売上・営業利益

黒：Q1 売上・営業利益

2019年度Q1実績 – 要約 B/S

(単位：億円)

	FY18Q4末	FY19Q1末	増減
	a	b	b-a
流動資産	4,205	4,048	▲ 157
現金及び預金	446	432	▲ 15
受取手形及び売掛金	2,193	2,042	▲ 152
たな卸資産計	1,229	1,292	+63
固定資産	3,975	4,071	+96
有形固定資産	2,294	2,417	+123
無形固定資産	122	124	+2
投資その他の資産	1,559	1,530	▲ 30
資産合計	8,180	8,119	▲ 61
流動負債	3,316	3,271	▲ 45
固定負債	2,065	2,092	+27
負債合計	5,381	5,363	▲ 18
株主資本	2,431	2,412	▲ 18
その他の包括利益累計額	46	28	▲ 18
非支配株主持分	323	316	▲ 7
純資産合計	2,799	2,756	▲ 43
負債・純資産合計	8,180	8,119	▲ 61
有利子負債	2,460	2,519	+59
自己資本比率	30.3%	30.1%	▲ 0.2
NET D/Eレシオ	0.81	0.86	+0.04

たな卸資産

63億円 増加

有形無形固定資産

125億円 増加

設備投資増加の影響
51億円

海外子会社へのIFRS16号(新リス会計基準)適用
73億円

投資その他

30億円 減少

投資有価証券減少
▲20億円
(株式売却および時価評価)

(単位：億円)

	FY18 Q1 実績	FY19 Q1 実績	前年比 増減	FY19 年間予想
	a	b	b-a	
設備投資額	107	122	+15	480
減価償却費	66	71	+6	305
研究開発費	50	54	+4	230

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***